明日へ向けてのアピール（２６）

ろう・難聴児（者）が主体となる教育環境作りに向かって前進しよう

東京都において、２２年ぶりに、第２６回ろう教育を考える全国討論集会が２０１４年８月２日、３日の二日間にわたり開催され、全国から集まった約５５０名の参加者が、トークセッション、実践報告＆実践研究、講座、ワークショップ、パネルディスカッション、ポスターセッション、小学生・中高生企画に参加し学習、討論を行いました。

東京集会では、「共に変えよう！新しいろう・難聴教育」をテーマにした企画がありました。ろう児の気持ちを共感できるコミュニケーション力を身につける手話講座、武道・ダンスの必修化に対しての若者によるダンス、武道、絵本の読み聞かせ。できることはたくさんあることを教えられた、ろう・難聴児をもつ家族の情報交流・意見交換。書記日本語を身につける様々な取り組みの経験交流、最終日には人工内耳装着児童の現状と課題を共有するパネルディスカッションがありました。ろう教職員トークセッションでは、ろう教職員の意見交換が初めてできました。現場での悩みを通して、未だろう・難聴児（者）が主体になっていないろう教育の現状がはっきりと現れたと思います。今後も、ろう教職員が集会に関わり意見を出していくことを期待するとともに、ろう・難聴児（者）が主体となるろう教育の確立に向けて、手話言語法制定への取り組みとも連動して取り組んでいきましょう。

そのために NPO 法人ろう教育を考える全国協議会は学校教育の現場で活用できる「学校の手話」の本を普及するなどの環境整備の一翼を担い、また、来年度の全国討論集会を第１回開催の地・大阪において開く準備をすすめています。また、本年度は一般社団法人鹿児島県聴覚障害者協会に加入頂きました。今後さらに私たちの目的に賛同いただく団体・個人に入会の幅を広げ、障害者権利条約の理念のもと、ろう・難聴児が生き生きと学び育つ環境の実現に取り組んでいきます。

参加者一人ひとりが、この東京集会で語り合ったろう教育の未来の実現に向けて、地域で仲間とともに取り組みましょう。引き続き、様々な関係者や専門家とともに子どもたちの幸せや豊かな未来を考え、そして来年の夏、大阪でその取り組みの成果を持ち寄って、再会しましょう。

２０１４年８月３日

第２６回ろう教育を考える全国討論集会 in 東京　参加者一同